

けれども、市民の本当の熱い思いが、先ほどは300万円から1,000万円の出荷を目指すという話もありました。そういった活動がますます盛んになって、長井市のこれは食のまちづくり、観光のまちづくりはもちろんいいんですけども、食のまちづくりが一層盛んになって、全国の各地から長井市を訪れる方がふえればいいなというふうに思いながら、質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

梅津善之議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位9番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 9月定例会の一般質問、最後の質問になりました。柄にもなく夏風邪を引きまして、声が聞きづらいと思いますが、一生懸命やりますので、よろしく願いいたします。

通告に従いまして、質問したいと思えます。

1番目の都市再生整備計画についてというところで質問させていただきます。

まず一番最初、3月定例会から河川緑地公園の購入費及び調査設計費、6月はコンサルタントへの委託料など、少しずつ明らかになっていく都市再生整備計画の全体像をいつも予算から出てくるということに、私自身、非常に納得できないでいます。本来こういう大切な大きな事業は、どおんと全体像を明らかにして、議会もそうでしょうし、市民や、たくさんの方からいろいろな意見をいただいて進めるべきだなと私自身は思っております。この進め方についてはさまざまなことがあると思いますが、私はそのように思っております。将来負担のかからない長井市を目指していくためにも、多数の方面か

らいろいろな意見を聞いて、そして具体的に詰めていくという形をとることが大切じゃないかなと常々思っております。

2番目の、市民の方のさまざまな要望より都市再生整備計画を優先するのはなぜかと、小さなところから道路を直してください、ここを拡張してください、歩道をつけてください、水路をつけてくださいと、さまざまなお願いが市民から出されているにもかかわらず、多額の予算を、補助金をあてにしての事業ではありますと思えますが、都市再生整備計画を最優先にいく、当然市内の活性化も含めてというのは十分にわかるんでありますが、何もこんなに急いでする必要は私はないと考えておりますし、国から認可されたから何としても予算づけをして進めていくんだなんていうことではなくて、やっぱり市民の方の合意のもとで進めていく、それが何より市政運営の基本ではないかと思っております。ぜひその辺は市長にお伺いしたいと思っております。

3番目、計画変更はあるのか、するかしないかを問う前に、場所を、ここでいいとかあそこでいいとかという話を多くの議員からされていると思えますし、例えばフラワーガーデンは要らないとか、いろいろな話があると思えます。にもかかわらず、今定例会では調査設計費などを予算の中に上げてこられておりますし、いろんな議論をする前には是非を問わなければならないという議員の気持ちも、ぜひ市長にはわかっていたいただきたいと思えますし、その辺をよく考えていただきたい。変更はあるんだと言いながらも、やっぱりこしかないとしか聞こえてきません。

私の私案を一つ、二つ申し上げさせていただければ、いろいろな形で市民からの要望の、例えば何年来のお願いの致芳橋を早急に実現し、成田の工業団地などにも光を当てるという意味も含めて、そこに道の駅やかわの駅を持ってい

くことはできないだろうか。

さらに、タス周辺、これは何人の方の議員のご意見があったと思いますが、文化会館周辺にかわと道の駅をつくれないうか。私はここに、例えば文化会館の改築が迫っているのであれば、文化会館と道の駅の合築であるとか、例えば黒獅子まつりが長井市のメインとなる祭りとなっているのであれば、そこに黒獅子が入る神殿も含めてつくることできないだろうかとか、さまざまな検討がなされてもよいかと思いますし、よく話にあるのが、市の南側は自然にお店も出て活性化していく、北側は何か寂れていくみたいな話がある。そういったバランスも含めて、市民全体の議論からできていく都市再生整備計画であるというのが私の考えであります。

どうしても、何としても反対なんていうことでは決してないんですが、進め方について、さまざまな方からいろんな話を聞いて市のまちづくりをしていくのが市政運営の基本だと思いますが、市長、これはいかがですか、ぜひお答えください。

次に、観光振興計画についてでございます。

まず、産業として成り立つかということでございます。東北地方と言わず、ここ山形県長井市は冬の時間が長くあります。そこで、例えばフラワーガーデンなりをつくったとしても、冬期間はどうしても人の来ない時間が長くなるということが考えられます。これは道の駅やかわの駅だって同じことだと思います。観光で雇用創出、大量な人を雇用できると市長はおっしゃいますけども、決して私はそうではないと思います。一時的な雇用は確かに出るかと思いますが、一年を通して雇用していける観光産業として本当に成り立つかというのは疑問があると思いますし、市民含みでこれも全体として考えていかないと成り行くものではないと考えます。

例えば駅前に構想があるフラワーガーデン、イングリッシュガーデンといいますか、角野栄

子記念館を含めた計画であっても、このようなものをつくる前に、まず市民が水と緑と花の長井を象徴するような、花のまちづくりに協力できる体制並びに市民の気持ちの開拓こそが最優先されるのではないかと考えております。自分のうちの庭はもとより、各街路樹の下、今、一生懸命、各地区ごと花いっぱい運動であるとかで地区長さんが中心になってやっている地域もございますし、そこに、ぜひ287号線沿いに各地域が花をたくさん植えて育てていく、そしてみんなで作った花の長井を結果として駅前にできる花公園は公設民営も含め、ボランティアの方がつくる有料公園も実現できるような考えを私は持っております。

まずは、市民の花に対する理解があつて、その後でフラワーガーデンなんかを市民の意向も含めてつくってボランティアで運営していく、さらには、そこでお金を取る公園に市民の中の思いからできていく、そういう考えであれば何の問題もないと思います。それを例えば行政主導でやるとすれば、莫大な公費もかかると思いますし、地域の協力も得られないという形になると思います。どんなことをするにしても民意があつてできるものは必ず成功します。ぜひその辺をお考えいただいた上で検討していただければと思います。

さらに、長井市の風土を生かした観光でなければいけないという考えに立てば、長井市は当然、水、山がたくさんあります。それを生かした観光、おまけに農業が盛んでございますので、グリーンツーリズムであるとか都市と農村の交流などを含めた観光、これは決して箱物が要るわけではないですし、地域の協力があれば実現できると思います。特にレインボープランなど、世界に誇れる考えを持っている長井市の思想を含めたグリーンツーリズムを展開できると私は信じておりますし、そういうことを最初にやって観光というのを位置づけていったほうが非常

にしやすくないのではないかと考えております。ぜひその辺も市長にお答えしていただきたいと思っております。

次に、中心市街地活性化の基本計画についてでございます。

街路事業がもう国、県から認可されて、もはや土地の買収なり設計なども進んでいるとお聞きしております。市民の方が心配しているのは、道は広がったけども、空き地になってしまったとか、お店がなくなって何か殺風景になったということになるのではないかとこのことを心配されております。ぜひ、さまざまな形で検討がなされている経過でも構いませんし、今後、市としてこうしていくんだなんていう考え方をお聞きできれば、ありがたいと思っております。

最後に、上下水道課長にお聞きします。

平山浄水場西300メートルの水道用地についてです。まず、土地購入の経過について教えてください。私の聞いた話では、ダムの水源地域ビジョンにのって、ダムから水を引っ張る予定があるということで土地を購入していたということを聞いております。最近では、年に二、三回草を刈って、そのままになっているという状況を市民の方からお聞きしました。今後の利活用も含めて、当時のビジョンとは相当変わってると考えております。ぜひ今後の利活用も含めてお話を聞かせていただきたいと思っております。

以上で壇上よりの質問といたします。ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員のご質問にお答えいたします。

梅津議員からは、私は大きく3点だと思いません、まさに普通の一般市民の方の目線からのご質問だというふうに思いました。それで、きょうは説明のために先ほど大道寺議員にもパネルを使わせていただきましたけども、梅津議員に

もパネルを使わせていただいて一部説明をさせていただきたいと、答弁をさせていただきたいというふうに思います。

まず最初に、都市再生整備計画の進め方についてでございますけれども、都市再生整備計画というのは国土交通省の事業の一つでございます。補助事業の一つでございますが、これは5年間の事業の内容、それは趣旨が、都市の再生、中心市街地の活性化を図るということを目的に、同時に、生活環境整備も行うという事業でございます。ですから産業・建設常任委員会の方々には全体像をしっかりと示しているはずだと思います。全体像を示して国の認定をいただいているわけですから、議会に全体像を示さないままに個別に小出しするというのではないはずであります。もし小出しにしているとしたら、それは大変当局側の手落ちでございます。

ですから全体像の19億1,000万円の事業の内訳、どういう趣旨でこういうことをやるかということもしっかりとお示ししてありますので、小出しではないというふうに思っています。ただし、3月の定例会でも議論になりましたように、今回24年度分に補正も含めて出ささせていただいたのは、全体像の中の24年度分の予算について承認をいただきたいという議案であったわけです。

今回、都市再生整備計画というのは大きく二つに分かれておまして、これはにぎわいをつくったり、まちの中を活性化するための事業と、もう一つは、例えば道路改良、消雪道路、水路整備、水路改良等々の生活環境整備、この二つが大きな柱になってます。ですからその柱については、例えば生活環境についてはいろんなところからいろんな要望が上がっておりますし、請願が来てるわけです。それを受けて事業を組み立てたと、組み入れたということですから、市民の意見はしっかりと聞いているわけです。あるいは市議会議員の皆さんからもいただいている部分は、しっかりと組み入れてます。

それから、いわゆる活性化するための事業の中には、先ほどありましたように、かわと道の駅については、以前から道の駅をつくるべきだと、こういうようなことで経済再生戦略会議から言われてますし、それは議会でも何度も答弁してます。それから長井ダムの周辺環境整備の計画の中にかわと道の駅というのはちゃんと組み入れてるんですね。河川公園も何も私がいきなりやったんじゃないなくて、もう何十年も前から全体像は示してるんです。ただ、予算の関係上なかなかできなかったと。これをやるかどうかは、やっぱり議論して決めなきゃいけないと思ってます。

あとは、本町広場は街路事業を円滑に進めるために考えたものでありまして、これはぜひ認めていただきたいと思えますし、花公園については、私の考えでありますし、公約の一つではあるんですが、何度も言ってますように、別のものでもいいですよと、それは変更は幾らでもできるわけです。現に名称は変わってしまったんですが、まちづくり交付金事業で相当メニューを変えているんですね。ですから言ってることは全くうそはありません。

ただ、今回、場所ですね、かわと道の駅の場所については、結局決まってるんじゃないかというお話をなさいますけども、結局かわと道の駅がいいですかって聞いているんですが、場所がやっぱりだめだからという方もいらっしゃるのかもしれないですね。ですからかわと道の駅はどうでしょうかって、よしとなれば、じゃあ、場所をどうしますかというふうに具体的に検討するわけですね。場所があそこだからだめだということではないんだということをお願いしてるわけですよ。ですから総論の中で論じていただいて、各論から入らないでくださいということをお願いしてるんですね。

これは、やっぱり事業内容がわからないというのがあるかと思えます。しかし、これは都市

再生整備計画を進めているほとんどの全国何百の自治体も同じようなやり方で進めざるを得ないわけですね。ただし、今回、かわと道の駅については、これ国交省に聞きましたら、ああいってソフト事業、当初で、後々つくる計画をソフトで認めてもらったというのは初めてだそうです。観光交流拠点施設の計画書のソフトを去年の9月に認めていただきましたけども、ことし7月に国交省へ行きましたら、あれ東北で初めてなんですよというふうに言われました。それぐらい、いわゆる青写真をつくるために補助金は入れないんですよ。ですから単独でつくるしかないんです。

ですから議会の皆さんがおっしゃるのはよくわかるんです。中身が何なのか、よくわかんないと、どういう建物かよくわかんないと。でもそれをつくるには、職員はつくれませんので、外注しなきゃいけないんです。それは、つくるかつくれないかわからないものを外注するというのは、できないんですよ。ですから今回みたいなお上程の仕方になるということで、ご理解をいただきたいと思えます。したがって、市民のさまざまな要望より優先するのはなぜかということじゃなくて、要望をこの事業に組み入れたということでもあります。

なお、道路の整備については、たくさん要望がございます。生活環境というのは、特にこの2年は雪が多かったですし、高齢化社会になりますと、きちんと整備いただきたいと。これごもっともであります。基本的な考え方として、都市計画区域内、都市計画区域外、二つについてはやり方を少し変えています。都市計画区域内は、こういった都市再生整備事業で進めていくと。なぜかというと、予算がつきやすいからです。ところが、区域外のところは社会資本整備総合交付金事業でしなきゃいけないです。これは、いろいろ厳選するんですが、予算がつかないんですよ、6割ぐらいしか、6割から7割。

ですからそういった意味で、やっぱり両方をやりながら、まず要望に応じていく。

ですから、まちの真ん中だけずるんじゃないかと言われれば、これはしょうがないんですが、しかし、区域外は区域外で、都市計画区域外でちゃんと地元の要望に応じて、場合によっては単独事業でもやってるわけですので、ぜひ、そこはそういったことではないんだということでご理解をいただきたいと思います。

計画変更については、先ほど言いましたように、まず全体的にお示ししてる中で、今回の事業がいいか悪いかですよね。かわと道の駅がダメだったら、これはしょうがないというふうに思います。かわと道の駅がいいとなったときに、場所をどこにするかは、それからの問題だということは何回も私言ってます。金曜日のあれでもお話ししましたけども、今、私が考えてるのは、あそこがいいだろうと。あと、検討委員会でも市民の皆様からいただいたのも、あそこがよりベターだというお話でした。そこをご理解いただきたいと思います。ですから変更はもちろん可能です。ただし、時間はだんだん限られてくるということです。

具体的な対案もいただきました。おっしゃるとおり、非常にいろんな考え方がありまして、おもしろいご提案だなと、いいご提言だなというふうに思ってます。例えば、これは2番目の観光振興計画にも入ってくるわけですけども、タスとか文化会館周辺に黒獅子会館、これも前々から、今から10年ぐらい前からずっと観光協会は黒獅子会館必要だとおっしゃってました。これおもしろいアイデアですね。ですからこれも一つだと思いますが、例えば道の駅の場所についても、成田とか致芳橋にあわせてということがありました。

まず、致芳橋というのは、どの道の橋ですか、国道ですか、県道ですか、市道ですか、これからまず考えなきゃいけないんですよ。かわと

道の駅は豊田につくってください、かなり言われてるんですよ、実は私は。それは、フットパスが始まったのは豊田からなんですよ、白川沿いからなんですよ。白川大橋はこれから工事入りますけども、あの周辺にどうぞつくってくださいと、住民の皆さんが桜堤にずっと植えたんですよ。けども、私はそういうかわと道の駅じゃなくて、長井市全体を考えた場合に、中心市街地にあることが一番市民にとっても、そして長井市の振興上はいいんじゃないかということで、あえて地元で非常にあいつは何だというふうに言われてますけども、そういったことではなくて、もう少し全体を見て考えているところです。

ですから成田の道の駅というのもおもしろいと思いますけれども、それは致芳橋が実現するときにやっぱり考えていったほうがいいのかなと。致芳橋実現については、可能性がないわけじゃないんですね。西回り幹線道路とのかかわりで可能性としてはあるというふうに思ってます。

済みません、2点目の観光振興計画のほうに入ってしまったけども、観光振興計画として産業として成り立つのかと。それはおっしゃるとおりだと思います。このパネルをごらんいただきたいんですが、済みません、こんなもので申しわけないんですが、これご承知ですよ。山形県内は、これ21年度ですけど、約4,200万人の観光客が統計上いらっしゃいます。このうちの半分は県外客だそうです。これはほとんど間違いはないだと思います。置賜は、うち916万人ぐらいですね。県全体の21.9%。長井市はどのぐらい来てるかというと、黒獅子まつり、花火まつり、水まつり全部合わせて62万3,000人、県全体の1.4%です。置賜の6.8%しか実は観光客っていらっしゃらない。この62万3,000人のうち、多分半分以上が市民の人がカウントされてます。ですから純粋に外から来るお客様

って今いないんです。ですから余計可能性があるわけなんですね。

そういった中で、例えば長井市の主な観光として、あやめ公園13万4,000人、つつじ公園13万2,000人、さくらまつり13万1,000人、何か奇遇にもみんな13万人ぐらいなんです。これ多分かなり市民の人がカウントされています。例えばあやめ公園、私はこっちは10回ぐらい、15回ぐらい行ったでしょうかね。特に我妻議員なんかは20回から30回は、毎日行っていますから50人分ぐらいカウントされていますよ。そういう状況なんですよ。ですからこれが長井市の観光の実態だと。

同時に、これは観光客の今の数字をグラフであらわしたんですね。4月のさくらから、5月つつじ、6月あやめ、7月、8月のいろんな行事、水まつり等で、もうここがピークなんです。そのときは1カ月に10万人から13万人ぐらいいらしてると。ところが、水まつりが終わりますと、いきなり1,000人ぐらいになるんですよ。ずっとです。やっぱり梅津議員おっしゃるように、観光として成り立たないです、おっしゃるとおりです。これを弱点を、悪い面をカバーして、ここまでは行かなくても、ずっとこのぐらい底上げしようというのが今回、観光振興計画の主な目的なんですね。

そのために何をするかということが、いろいろ話し合いをやっているわけですが、今回の都市再生整備計画の中では、中心市街地の活性化として、先ほど言いましたように、長井の資源を生かす上で中心市街地の活性化というのは、やっぱり長井はもともとは舟運のまちで大きくなったわけですから、それを生かさない手はないだろうということで、結局こちらから先に見ていただきますと、ここの紫の部分の舟運のいろんなものが残ってる場所なんですね。こちら宮ですよ、こっちが小出、ここは長井駅、これ市役所で、ここが小出の船着き場、こ

れタスの北側なんですよ。あと藩の船着き場は長井橋のところですね。

今回まさしくここからここまで、ここの部分を市で買わせてもらいたい、一部この辺ぐらいまでは国で買ってもらったんですよ。こっちの部分を買えば、ここのところ全部公園にできる可能性がある、なおかつまちの真ん中ですから長井市の公共施設というのは、どこの市町村からも言われるんですが、駐車場って本当ないね、長井市はと、こう言われます。ところが、まちなかに駐車場をつくるには莫大なお金がかかります、あんまり用地もないと。河川敷いっぱい利用できるんじゃないかという考え方もあります。ちなみに、ここはかわと道の駅の候補地として上げてるんですが、ここを活性化することによって、こっちも全部生きてくるんじゃないかという考え方です。人の流れというのは、水色の道路に沿って来るわけですね。あと、緑色が鉄道ですから、ここを中心にまずにぎわいをつくれないかというのを街路事業が始まったので急がなきゃいけないということなんです。

概念的な部分は、これはごらんになってるかもしれませんが、長井駅とかかわと道の駅、川と道路と鉄道と3つの駅があるわけですね。それに今度まなび館が森と水の入り口だとすれば、駅がいっぱいあるわけですよ。これをうまくつないでいくというのが、その次のステップだというふうに思っているところです。

パネルは、こんなところでお話しさせていただきたいと思いますが、少し急いで答弁させていただきます。

観光として成り立たないのは、特に冬の期間があります。ただ、冬の期間でもかわと道の駅は、川の部分はちょっと厳しいと思ってます。でも道の駅は生きていくだろうと。

あと一方で、花公園みたいなものは、アヤメもツツジも桜も1カ月以内ですから、それをカバーするものとして、いわゆる普通の花だけじ

やなくて常葉樹とか木とか、いろいろなものを使ったガーデン、永年性のもの、これは梅津議員はよくご存じだと思いますが、これを春から秋までうまく見せる、そして冬の間はライトアップして見せる。冬は冬でガーデンのほうの外から来る主なお客さんというのは、主体的には山形鉄道で考えておりますので、山形鉄道の、例えば豪雪列車とか地吹雪列車とかいろいろあるわけですが、それと同じようにライトアップの電車ということで、相当お客さんはそれで呼べるんじゃないかというふうにもくろんでいます。

ただ、これはこれで、花公園は別のものがあれば全然花公園でなくても私はいいと。ただ、まちなかの活性化と山形鉄道を生かすにはどうするかという視点で、ぜひこの辺はいろいろご提言をいただければと思います。

長井市の風土を生かした観光って、これはもちろん要るわけですよ。これが基本です。例えばグリーンツーリズム、エコツーリズム。グリーンツーリズムで成功してるのは、特に教育旅行で有名なところですよ、長野県の飯田市。これはもう30万人ぐらい受け入れてます。小中学生の農業体験などの2泊か3泊ぐらいの旅行を受け入れてるんですね。そういったところを長井市でもやりたいというふうに思ってます。しかし、ようやく伊佐沢のほうで農家民宿を始めたばかりで、残念ながら中津川みたいな、じゃあ、みんなでやろうというところにならないところが厳しいんです。

例えば西根の古代の丘とか非常にいいわけですよ、あの周辺の農家の方たちが、じゃあ、おれたちも農家民宿やろうと、市も協力しろといえ、もう渡りに船なわけですよ。そのために川崎市とか大田区と交流してるわけですから、それからふるさと長井しあわせ応援大使、そのためにつくっているわけですから、しかし、受け入れ体制がなかなかやっぱり声をかけても難

しい。我々ももう少し力を入れていかなきゃいけないし、ノウハウをつくなきゃいけないと思いますが、これはこれで非常にいいわけですよ。ですから梅津議員おっしゃることは全く間違っていない、正しいです。しかし、それにプラスして行政として考えていくということが必要だと思っております。

最後に、中心市街地の活性化基本計画でございますが、街路事業とあわせて具体的に検討されているのかということですが、街路事業は県の事業ですが、先ほども議員がおっしゃいましたように、補償だけもらって事業やらないでどっか行ったという人が出てきたら、もうかえって衰退するんじゃないかと。おっしゃるとおり非常にその心配があるわけですよ。ですから県ではなかなか20年以上認めてこなかったです。これはなぜかという、360メートル、27億円かかるんですよ。その多分8割以上は用地等補償費です。

ですから、そのために将来の長井市の中心市街地のビジョンをみんなでつくりましょうと。行政が示すことはできないわけですよ、だって、事業をやるのは民間の方ですから。それを県もきちっと検証して、そして本町・中央まちづくり協議会のほうでは商店街と一緒に、街路事業あつたとき土地を協力してくれますかと、事業をやめるんだったらお願いしますねと、あるいは引き続きこういう店をやるんだということずっと要望をとって、その上で承認いただいたわけですから、これは間違いなく最初から、失礼ですが、歯抜けみたいな形は絶対ありません。しかし、結局もくろみが外れて、5年、10年後には店を閉めたというのはたくさん事例あるわけですよ。それにならないようににぎわいをつくる、かわと道の駅あるいは花公園みたいなものをつくるというのが今回の事業です。しかもそれはスピードアップしなきゃいけないということなんですよ。

ですから、そのところをご理解いただきたいと思いますが、今、梅津議員がおっしゃったことというのは、普通の市民が思っていることだと私は思っています。ですから、これから9月の25日を皮切りに来年の3月までかけて、市内大体40カ所で、地区公民館6カ所と、あと各大字単位ぐらいで意見交換会をさせていただきたいと。そして皆さんの困っていることをお聞きしながら、一方で、自分たちの地域をどうしたいんだ、行政がしてくれるんじゃないですよ、自分たちの地域は自分たちでつくらなきゃいけない、そういったことを意見交換してまいりたいと思います。以上でございます。

○蒲生光男議長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 梅津議員のご質問にお答えします。

私からは、都市再生整備計画の進め方について若干ご説明申し上げたいと思います。

先ほど市長からも説明ありましたが、都市再生整備計画につきましては、24年、ことしの1月に国土交通省から認定をいただいたものでございます。都市再生整備計画については、事業の概要で認定をいただくため、その詳細な測量設計等については、認定を受けた上で予算化を図って、その上で設計等に入る事業でございます。24年度の予算化を計画してますかわと道の駅と、それから最上川緑地公園の予算化に当たりましては、昨年9月に補正予算として計上しました地域活性化基盤整備推進計画調査業務の委託の中で計画検討委員会を設置しまして、16名の市民の皆様からいろいろご意見を伺いながら、平成24年3月に基本計画としてまとめたものでございます。その間、庁内における関係機関の調整や庁議などで計画案を検討しまして、最終的に構想としてまとめた基本計画を皆様にご説明申し上げたものでございます。以上でございます。

○蒲生光男議長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 梅津議員の質問にお答えします。

市長の答弁とダブるところが多くございますが、ご容赦願います。特に②ですか、長井市の風土を生かした観光ではいけないのか、長井には多くの観光資源がございます。長井市の観光のベースとなりますのは、長年、先人が築き上げた名所であり、風景であり、公園、まち並み、伝統芸能、黒獅子等でございます。ただ、残念なことに、このままでは県内の観光者の概数1%、先ほどは1.4%ということで、過去からの課題であります通年観光や誘客の課題に対応できず、特に最近は大きな誘客の要因が見当たらない状況ではないのではないのでしょうか。

ただ、いいものはいっぱいあります。ただ、お客様が入っていない、これが現実です。グリーンツーリズムなんかも、もちろんこれは進めていますし、進めなければなりません。教育旅行も、伊佐沢だけではなく、西根のほうに拡大をすべく今週実は会議をして会員拡大を進めようとしています。

イベント性をふやせばというご提案ですが、これまでの観光施策が今おっしゃったとおりのイベント重視でありまして、残念ながら結果を見ておわかりのとおり観光客の増加には至っておりません。イベント実施に重心を置く振興施策から誘客の仕組みづくりに特に行政は重点を置くように改めることが重要ではないかと考えています。グリーンツーリズム、あやめまつり、黒獅子まつり、単発で考えることから年間を通して観光客の増加を目指した施策に転換をする必要があるのではないかとということです。

特に、行政はイベント屋という異名をとっております、観光振興課はですね。イベント屋から仕組み屋、こういうふうな性格を転換する必要があるのではないかと考えておるところです。ですから今回の観光振興計画の特徴は、先ほど市長の答弁にもあったとおり、底上げを図り、

総量を上げる。そのための仕組みをどうしていくか、そういう重点施策になるかと思えます。そして総量を上げた中で、既存のイベント、まち並み、そういったところに誘客をする。総量を上げてから誘客をする、こういった仕組みづくりが一番の重点施策と考えています。以上でございます。

○蒲生光男議長 中井 晃商工振興課長。

○中井 晃商工振興課長 それでは、私から中心市街地活性化計画と今回の街路事業に伴います取り組み状況についてお答えいたします。

先ほどの市長の答弁でも、街路事業が進むことによりまして空き地ができたり、あるいは商店街ではなく宅地化になつたりしないように、これまでも十分に話をして事業を進めておりますという答弁がございましたけれども、具体的な対応策につきましてお答えさせていただきます。

本町地区につきましては、本町・中央まちづくり協議会というのを組織をしております。事務局といたしましては、商店街からの事業者、行政側からは、まち・住まい整備課、企画調整課、商工振興課が事務局として入っております。ここの中で、都市整備部会、景観部会、地域振興部会という部会を設けましてそれぞれ活動をしていただいておりますけれども、今回の街路にかかわりまして特に大きなものとして、まちなみ形成委員会というのをつくっております。ここの中で、新しくできます通りが、統一のとれないようなまち並みにならないように、きっちり景観として統一感のあるようなものにしたということで、地元の皆さんと協定書を結びまして、なおかつ実際に計画しておりますデザインを審査いただく委員の方も任命いたしまして、事前にチェックをさせていただきます。まち並みが統一されるようなことで対応するというふうなことも進めております。

協定書の中には、用途といたしましては、事

業所にする、まるっきり住宅にはしない、あるいは空き地とはしないというような協定も結んでおりますし、もし自分でその敷地を店舗として活用できない場合は、賃貸するなり、ほかの人に商業活動をやってもらうような対応をしていただくような協定内容もございますので、先ほど心配されましたような、せっかく道路が新しくなったのに活性化しないまちができてしまったということがないようにということで進めております。

また、地元の皆様には、まちなか再生プロジェクトとして七つの事業を検討いたしまして、地区の活性化のためのいろんな事業も検討をしていただいております。七つのプロジェクトの中には、既に解決しまして課題としてもう解決済みのものもありますし、また、今回の街路事業にあわせまして、このプロジェクトが本当に入れ込めるのかということも、これからまだ検討しなければならないというものもございますけれども、地区の皆様方も街路にあわせまして本町の活性化のためにいろんな取り組みをしていただいておりますし、せっかくの事業が無駄にならないような形で、地元の皆様からは全て協定書のサインを出していただいたというふうに聞いておりますので、まずは問題なく事業が進むのではないかとこのように考えております。

○蒲生光男議長 鈴木要一郎上下水道課長。

○鈴木要一郎上下水道課長 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

平山浄水場西300メートル先の水道用地についての1点目のご質問で、土地の購入経過についてにつきましては、第4次拡張事業水道施設整備基本計画にある長井ダム水源開発整備事業により、置賜野川から水を取水目的として、日最大1万立方メートルを取水する計画から、この土地を浄水場の建設用地として、当初長井ダムの完成予定が平成17年度であったことから、ダム建設のスケジュールと並行しながら平成11

年度、12年度において購入をしたものでございます。

場所につきましては、平山字落合、平山浄水場から西へ約300メートル先のところでございます。購入面積につきましては、全体計画面積のうち一部転作地等、林の部分を除いて全体の8割近い1万4,778平方メートルを購入しております。現在の利用状況につきましては、土地の東側の一部、約4,000平方メートルを第6、第7水源及び地下用発電設備の敷地として利用しております。残りの土地については更地となっております。その管理を業者に委託をしまして、おおむね2カ月に1回の割合で草刈りを行っているところでございます。

次に、2点目の今後の土地の利活用についてでございますが、現在での考え方を申し上げますと、長井市地域水道ビジョンにおいては、ダムからの取水時期については平成32年としているところでございますが、浄水場の建設には膨大な費用が伴うこと、また、河川水を利用した場合の課題等々、課題が山積しております。現実的にはダムの水を取水することについては非常に困難な状況と言えます。

しかしながら、地下水は資源として有限であり、また、地下水の変動も考えられますし、井戸そのものも永久的なものではないなど、将来を通して安定した水源としては保障されたものではありません。したがって、将来にわたり安定した水源、ダムの水を確保しておくことが必要不可欠であると認識しているところでありますので、この土地につきましては、引き続きダムの水を取水する目的の浄水場建設用地として保管してまいりたいと考えているところでございます。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 それぞれ答弁ありがとうございました。

まず1点目なんですけども、市長にお伺いし

ます。都市再生整備計画の中で、道の駅だけじゃなくて、都市計画区域内の道路なども整備するんだという考え方というのは十分にわかりますけれども、じゃあ、何で道の駅が必要なのかというのは、観光振興とか中心市街地を含めた中でそれが必要だという話でございますけども、例えば道の駅に来て、歩いて中心市街地へ買い物に行ったり、散策に行ったりするかといえば、これはちょっと俺は違うんじゃないかなと思いますし、道の駅という考え方と中心市街地の活性化というのは、また別の考え方で捉えて考えていかないと、決して全てがぐるみで一緒に河川公園も一緒だという考え方では、ちょっとこれは成り立たないんじゃないかなと思いますし、道の駅は道の駅で必要で、これとこれとこれをしていくんだという、そういう考え方にはならないんじゃないでしょうかね、市長。お願いします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員の考え方も正しいというふうに思いますが、まず道の駅として最初、経済再生戦略会議の中から出てきたのは、直売所です、農産物の直売所をぜひやるべきだというようなことがありました。あと、長井ダムの環境整備の計画の中には、長井市は水のまちであり、舟運のまちなんだから、かわの駅、それはできれば道の駅と一緒にのほうがいいんじゃないかという考え方での話がありました。道の駅っていっぱいあるわけですよ。長井市でやっぱり特徴つけるとしたら、舟運の文化がわかるようなかわと道の駅が一体になった駅がいいだろうと。今、全国で道の駅というのはすごく注目を浴びてて、成功してる場所はすごいです。成功してる場所というのは、単なる物販だけじゃなくて遊べるんですよ。いろんなレストランとか食事とかできる。そういったことを持たせたらいいんじゃないかというのが基本です。

梅津議員おっしゃるように、道路で来たお客さんを、車でいらっしゃいますから歩きはほと

んどしないです、多分。でも情報をきちっとそこで得れば、次回はまち中に来てみようかなというリピーターにつながりますし、それと同時に、よく言われているのは、循環バス、100円のワンコインで、もうそれこそ15分置きぐらいにぐるぐるぐるぐるいろんなところを回る循環バス。

あと、いろんな人からいろんなアイデアなんかいただけてますが、水まつりでも活躍した韋駄天ですね、ああいうビークルを何台か置いて貸せばいい、あと自転車を貸せばいい。時間がある人は車を置いて回ってもらえる可能性もあるんじゃないかと。しかし、せつかくの交通量があるところをキャッチしないで素通りするのはもったいないだろうということで、あと観光協会も、残念ながらタスの中にあるんですよ、タスの中に観光を聞きに来た人って私、一回も見たことないですね。ゼロではないでしょうけど、ほとんど来ないですよ。そんな観光案内所もないような状況でいいんですかということもあって、今回の事業で入れたほうがいいんじゃないかなと私は考えたところです。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 市長の考え方も十分それはわかんないわけではないんですけども、今タスの話もありましたけども、合築して、合築というか、当時、私の入社とタスオープンが一緒ですから、もう二十四、五年たってると思うんですけども、建物を建てる時も、さまざまな議論があって建設されたというふうにお伺いしております。やっとな負債が来年だか何かでけりがつくような時期に、また新たなものを、道の駅となるものをわきにつくってという財政的な不安は多分市民の方はお持ちになってると思うんですよ。

例えば4割は国の補助事業で、残り6割も後年度の負担で助成していただけるという市長の説明は折々に聞いているわけですけども、結果

的に市民の負担になるようなことを決めてしまうという不安が多分市民の方にはあると思うんです。できればタス周辺にとかというのは、そういう考えでも出てると思いますし、例えばそこから物産館なり、今は隣に菜なポートなんかもあって結構売り上げも伸びて大変好評を得てるということではあると思うんです。

だとすると、やっぱりその辺は都市公園との兼ね合いも当然あると思いますし、文化会館もというのがありますし、さっき言った黒獅子のことも含めて場所的なことはそちらのほうでという考えにどうしてなんないのかというのは非常に理解できない、右折レーンがないとか、都市公園で都市公園の建物を建てる率が厳しくなったりという全くもって話にならないということでないと思うので、そういうこともぜひ検討できないのかというのは、もう一度お願いしたいと思います。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 こういう言い方は失礼かもしれないですけども、梅津議員は道の駅とかわの駅が反対か賛成かわかりません。それはもちろんそんなことを聞くあれも権利もないんですが、ただ、一つ言えることは、タスみたいな施設ってほかにどこありますか、この辺。道の駅っていっぱいあるじゃないですか、行政でやってるところ。ですから道の駅というのは、いきなり出てきたんじゃないですよ。前々からそういう話があって、川の駅でもそういう話があるんですよ。

タスも、もう悪い部分だけじゃないんですよ。確かにいろいろタスの問題では、当時の市長とかいろいろあったり、選挙等々あれ以降大変でしたよ、長井市も。だけども、タスそのものは、例えば私ども地場産業振興センターが必ずしも悪かったかということ、そうでもないんですね。ただし、あの施設というのはやっぱりホテルですよ、基本的に。ホテルを道の駅というのは難

しいですよということが一つ。

ただ、私も本当はタスの周辺に道の駅があるのは一番理想ですよ。私がいいと思うのは、やっぱり長井ダムから、それこそタスまで全部あそこに数軒の会社があって、民家が何軒もありますよ。あのぐらいいないとだめですよ。あと、社会福祉協議会の入ってる施設、全部あそこからすくとタスまでつなげたら、これはすごいですよ。でもそのぐらいの規模じゃないと、きっとちょっとしたドライブインみたいなのではだめなわけですから、そうすると、現実問題として都市公園の中にそういったものをつくるというのは、面積的にもこれは不可能です。

あと、タスの中に道の駅を兼ねるということは、もう現実的にこれも不可能です。あと、黒獅子会館は黒獅子会館でどういう機能を持たせて、どういうお客さんを呼ぶのかと、その内容の主なものは何だと。お獅子を見せるだけですか、それとも振ってるところを見せるんですか、いろんな中身次第でお客さんを呼べる施設かどうかで決まってくる。

例えば、ことし私、4月に久留米にフラワー交流都市で議長と一緒に行ってまいりましたけども、帰りに博多に回って、博多どんたくの記念館みたいなものがあるんですよ。誰も見てないですね。博多どんたくですよ、あの有名な、山車がばあっと。ほとんどいないですよ、誰も。ですから、そういったやっぱりどういうふうにするかって非常に重要で、黒獅子会館も、これはぜひおもしろいと思います。ですからそれをどういうふうにつくるかということも大切なんですけど、現実的に残念ながら今の状況の中ではあそこが一番優先だと私は思います。しかし、それはかわと道の駅が決まってからの話なんです。決まる前に場所をどうするかって話して、あその場所だったらいい、こっちならだめというのは違うんじゃないでしょうかと私は思ってるんですね。以上です。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 いや、決まる前にと言われても、さまざま場所も含みで市民の中で、先ほど豊田のこの辺にとか、私は成田の工業団地とかいろいろ話をしましたけども、そういう議論をやっぱり市民全体として合意した中でこういう事業というのは進めていくべきで、それより先に予算が最初についてくるというのは非常に解せない。ただ、市民の議論があって初めて道の駅ができてくるのは、私も決して非ではないと思いますけども、その前にいろんなことが進んで決められていくとか、市では設計ができないとかという問題では俺はないと思いますよ、市長。その辺はどうでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 6月議会のときに、3月の議会の決定というのは非常に重いものだと、結局中身がよくわからないので、中身を出してほしい。そうすると、簡単な青図はかけますよ。けども、今の状況の中でそれだけの十分な能力を持った技師、設計士、いたとしても、その業務にかかわるといのは非常に難しい。簡単なスケッチ程度は、これはつくれますよ、もちろん。ですからちゃんと出さしてください。でもそれもやっぱり必要ないというご判断だったわけですよ、議会は。

じゃあ、ほかの都市再生整備計画をやっているところがそういう状況かということ、ちょっと私も進め方、確かに間違ったところあるかもしれない。でも全体像をお示しして、とりあえず了としてもらって、まず最初の年の予算を認めていただいているということは、どこもやっているわけです。米沢市がもめてるのは、場所を変えたものですからもめてるんですよ。ですから場所はそういうふうになったか、米沢市の場合わかりませんが、基本的に今のこのままでいくと、あそこが一番いいというふうに、あそこしかないというふうに私は思っ

ますが、ただ、最終的に決定するのは、やっぱり話し合いで決めるしかないですね。

ですから、残念ながら進め方は悪かったかもしれないけれども、今もうタイムリミットがそろそろ迫ってまいりますので、やっぱりどうかで判断をいただきたいと。かわと道の駅がだめなのか、それだったらこれはしょうがないですね、それと違うものを考えていくしかない。議会で予算を認めていただかないと、もう進まないわけですから、そうしますと、また違うところを考えていかなきゃいけないというふうに思いますが、場所については、例えば議会の皆さんの総意であるところはだめだということであれば、これは重いわけですから、そのときはほかのところを根本から変えていくしかないんじゃないでしょうか。そのように思います。そうすると、かわと道の駅を都市再生整備計画でつくこと自体がオーケーだとしたら、場所を都市計画区域内で考えればいい。そうすると、成田でも大丈夫です、豊田でも大丈夫ですね。その辺はもう早く決めないと、リミットが来るというふうに思っています。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 決して十分理解したとは、ちょっと頭がぼおとしていてわかんないですけども、いろいろ説明いただいたことを踏まえて私自身も考えたいと思います。

どうもありがとうございました。終わります。

○蒲生光男議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○蒲生光男議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 3時00分 散会